

## 平成 30 年度～令和元年度（2018～2019 年度） CEGLOC 外国語教育部門活動報告

CEGLOC 外国語教育部門長 白 山 利 信

グローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）が誕生し、5 年が経過しようとしている。CEGLOC 外国語教育部門は、平成 30 年度から平成 31/ 令和元年度にわたって、英語セクション、初修外国語セクション（ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、朝鮮語）ともに教育の質を保証していくための活動と研究力の向上に真摯に取り組んだ。

以下に外国語教育部門の主な取り組みをまとめ、活動報告として紹介する。

1. 平成 30 年度（2018 年度） CEGLOC 外国語教育部門 実績報告書
2. 令和元年度（2019 年度） CEGLOC 外国語教育部門 活動記録
3. 令和元年度（2019 年度） 講演会報告（金谷壮太）
4. 令和元年度（2019 年度） FD イベント報告（ジャクタ・ブルノ、小野雄一、ヴァンバーレン・ルート） ※本誌刊行日程の都合により、2018 年度のイベントを含む
5. 平成 30 年度（2018 年度） 春期海外語学研修報告（白山利信、二ノ宮崇司）
6. 令和元年度（2019 年度） 夏期海外語学研修報告（久保田章、加藤百合、相澤啓一、池田晋）

## 平成 30 年度（2018 年度）実績報告書

### CEGLOC 外国語教育部門

#### 1. 概況

CEGLOC 発足から 4 年目を終えた。非常勤講師予算の削減や定年退職による人員の不補充が常態化する中、本学の外国語教育改革に向けたビジョン策定を試みた。そのミッションは、基本的に、国際的活動に要する学術的・社会的な外国語運用能力、一般学術目的の外国語による能動的なコミュニケーション能力の育成、トライリンガル能力（英語・日本語・初修外国語）を伸ばす総合的な言語教育の推進の 3 つである。今後、この理念を徐々に浸透させ、外国語教育部門の活動を強化・充実させていきたい。

平成 30 年度も、外国語教育部門の教員一人ひとりのたゆまぬ努力により必要な業務を滞りなく実施することができた。具体的には、新カリキュラムへの移行に伴う固定時間割の変更などに対応した教育体制を組むことができた。また、英語の新規採用人事の大幅な遅れという予期せぬ事態に対しても、関係教員が献身的に対応策を練り上げ、迅速かつ冷静に対処するとともに、授業科目の穴が生じないよう強い責任感を持って適切な授業運営を行った。一方、学内の国際化への貢献と国際交流活動への学生の強いニーズに応えるために、実践重視の生きた外国語教育として海外語学研修を積極的に行った。さらに、外国人教員が中心となって CEGLOC 教員の授業力と研究力を高めるための FD 研修を行った。全学の教員向けには、専門教育の授業を英語で行うこと（内容言語統合型学習、通称 CLIL）を支援するための FD 研修を意欲的に実施した。また、全学の学群学生を対象に、TOEFL などの外部検定試験のスコアを高めるための授業科目の開設を積極的に行った。

全体として、共通教育としての外国語教育の質保証の取り組みを行いながら、前年度以上の業務実績をあげることができ、平成 30 年度についても、本学の「教養教育スタンダード」の理念と目標を踏まえた外国語教育活動を着実に展開できたものと確信する。

#### 2. 教育

(1) 英語教育については、1 年生にはプレイスメントテストとして、3 年生には英語熟達度測定として TOEFL-ITP を実施し、全学生の統一した英語力の把握が可能な体制をすでに確立している。平成 30 年度は、課題となっている 3 年生の TOEFL-ITP テスト受験率向上に向けた活動をより強化した。TOEFL テスト説明会、TOEFL-ITP テストを 5 月と 11 月に実施した。前年度に続き、選択・自由科目として全学群生対象の「TOEFL Practice」「TOEFL Academic English」を開講した。全学の教員向けに、専門教育の授業を英語で行うこと（内容言語統合型学習、通称

CLIL) を支援するための FD 研修を 3 回実施した。特に CLIL 研修の取り組みは、今後正規課程に在籍する留学生の増加が見込まれる中で、英語による専門教育の拡大・強化は、喫緊の課題のひとつであり、本学の教育・研究のグローバルスタンダード化への対応という点で、非常に有意義である。

(2) 外国語教育部門として例年注力している単位取得を伴う海外語学研修では、夏期にドイツ語研修(バイロイト大学)、中国語研修(湖南大学)、英語研修(オックスフォード大学)、ロシア語研修(ロシア連邦サンクトペテルブルグ大学)、春期に、ロシア語研修(カザフスタン共和国アルファラビ・カザフ国立大学)、中国語研修(上海華東師範大学)が5カ国で実施された。どの研修も現地の生きた外国語による実践的コミュニケーション能力を伸ばす教育活動であり、本学が目指すグローバル人材育成に寄与するものである。

(3) 平成 30 年度「教育戦略推進プロジェクト支援事業」の一環として、フランス語でのボランティアガイド養成講座(オリンピック通訳ボランティアのガイド養成)などの活動を行った。また、トライリンガル教育を推進することを目的に、ドイツ語検定及びフランス語検定の受験促進と補助を行った。さらに、英語教育を柱として複数外国語の能力を統合的に認定する制度等を検討し、学生たちの外国語習得のモチベーションを与えるしくみを構築する基盤を整えた。

### 3. 研究

(1) CEGLOC 外国語教育部門の定期学術誌である『外国語教育論集』第 41 号を刊行した。その中で 3 本の研究論文が発表された。

(2) TSUKUBA GLOBAL SCIENCE WEEK 2018 に、CEGLOC として、パネルセッション“Enhancing 21st century skills in Language Teaching (CEGLOC)”を組んで参加した(磐崎貞貞 CEGLOC 長、小野雄一英語セッション長の企画・組織)。このような試みは、CEGLOC の外国語教育研究の成果を学内外に広く発信するものであり、一定の社会的意義を有している。

### 4. 社会連携

(1) 本学 Ge-NIS プログラム(大学の世界展開力強化事業)と連携して、渡邊修介氏(元在アゼルバイジャン特命全権大使)やシニコフ・マクシム氏(上海外国語大学准教授)などの有識者を招聘し、計 4 回の公開講演会を開催した。こうした講演会を通じて、地域社会に寄与した。

### 5. その他の業務運営等

(1) 平成 31 年度から実施される SF ターム教育及び新カリキュラム制度への移行に向けて、英語及び初修外国語の固定時間割を調整・確定した。

(2) 前年度に続き、高校生の CEGLOC 見学の受け入れを積極的に実施した。平成 30 年度は、6 県 8 校からの生徒を受け入れた。

## 6. 課題と展望

(1)定年退職者や転出者の後任の補充が困難な状況が続いている。新規採用人事についても予期せぬ遅延など新たな課題も生じている。共通教育という大学の基幹教育を担う CEGLOC の役割は、不変である。その意味で、安定的な授業運営は、どのようなことがあっても堅持しなければならない。現状を打開するための、考え得る限りの創意工夫をなし、外国語教育部門の組織的強化を目指した体制づくりと、業務の一層の効率化が必要である。現在の教育体制を維持しながら、これからの教育環境の変化にも柔軟かつ迅速に対応していくことが求められている。

(2)CEGLOC は、全学の共通科目「外国語（英語、初修外国語）」を開設し、適切に運営していく義務と使命を持っている。ゆえに、CEGLOC の総合的言語教育のビジョンを掲げ、その理念の実現に尽力する一方、基幹教育を担う CEGLOC の非常勤講師予算の削減や常勤教員の人員削減に対して今後も際限のない縮減に歯止めをかけるよう、強く主張し続けていかねばならない。

(3)今後も続いていくであろう、学内の厳しい財政状況を踏まえ、これまで以上に外部資金の獲得に取り組んでいく必要がある。企業や財団からの研究寄付金や寄付講座、そうした機関・組織との共同研究を通じて得られる研究資金等の確保に努めることが大切である。また CEGLOC 独自に開発した教材を筑波大学出版会などから刊行し、販売していくことで印税収入などの資金を得るなどの努力がこれから益々必要である。

今後も引き続き、学内外の変化動向を注視しつつ、本学の教養教育としての外国語教育の理念と目標を常に確認し、中長期の目標、短期の目標を着実に達成していきたいと考えている。

## 令和元年度（2019年度）活動記録

### 1. 教育

- (1) 新入生英語プレースメントテスト（4月9日）  
※1年次生対象 TOEFL-ITP テスト
- (2) 春学期期末試験（AB モジュール 6月28日～7月4日）  
（ABC モジュール 8月5日～8月9日）
- (3) ドイツ語研修（バイロイト大学、8月6日～8月30日 10名）
- (4) 中国語研修（湖南大学、8月22日～9月8日 3名）
- (5) 英語研修（オックスフォード大学、9月1日～9月21日 13名）
- (6) ロシア語研修（サンクトペテルブルグ大学、9月4日～9月28日 2名）
- (7) 秋学期期末試験（AB モジュール 12月17日、12月20日～12月26日）  
（ABC モジュール 2月4日、2月7日～2月13日）
- (8) ロシア語研修（カザフ国立大学、2月16日～3月9日 14名）

### 2. 会議・委員会

- (1) 外国語教育部門担当者連絡会議（4月3日、5月8日、6月5日、7月3日、10月2日、11月5日、12月4日、1月8日、2月5日、3月4日）
- (2) 外国語教育部門人事計画室会議（4月24日、9月25日）
- (3) CEGLOC 企画調整部門会議（4月3日、5月8日、6月5日、7月3日、10月2日、11月6日、12月2日、1月8日、2月3日、3月2日）
- (4) CEGLOC 運営委員会（4月17日、11月6日、1月15日）
- (5) CEGLOC 全体会議（6月5日、12月4日、1月8日）
- (6) 『外国語教育論集』編集委員会（7月9日、10月2日、11月13日）

### 3. 「教育戦略推進プロジェクト支援事業」

- (1) フランス語でのボランティアガイド養成講座：オリンピック通訳ボランティアのガイド養成  
期間：令和元年10月24日（木）～令和元年12月12日（木）  
開講日（実施日）：木曜日（10月24日・31日、11月7日・14日・21日・28日、12月5日・8日・12日）  
時間：18：15～20：00  
場所：国際講義棟 201 教室  
講師：ピシャー・アストリド（国内旅程管理主任者）  
担当：ジャクタ・ブルノ（筑波大学助教）
- (2) 第5回トライリンガルデー  
テーマ：Meeting of Languages  
日時：2020年1月15日（水）

担当：ジャクタ・ブルノ助教

(3) スタート・ドイツ語試験

日時：2020年2月19日（水）

場所：1B402, 403, 408

#### 4. 講演会

(1) 2019年度 CEGLOC 主催 新入生に贈る公開講演会

題目：グローバル時代を生きるためのヒントー多文化共生社会の中で創造性を発揮するためにー

日時：2019年5月29日（水）

講師：白山利信（筑波大学教授）

(2) 第1回「中央ユーラシアと日本の未来」公開講演会（CEGLOC との協力）

題目：カザフスタン共和国の現状と中央アジア諸国との関係

日時：2019年5月21日（火）

講師：イエルラン・バウダルベック・コジャタエフ大使閣下（在日カザフスタン大使）

主催：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」

(3) 第2回「中央ユーラシアと日本の未来」公開講演会（CEGLOC との協力）

題目：タタール世界への誘いーロシア第2の民族「タタール人」の言語と文化にせまるー

日時：2019年7月12日（金）

講師：櫻間瑞希（筑波大学人文社会科学研究所博士後期課程）

主催：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」

(4) 第3回「中央ユーラシアと日本の未来」公開講演会（CEGLOC との協力）

題目：ロシア語圏諸国の言語と社会ーベラルーシを中心としてー

日時：2019年9月13日（金）

講師：清沢紫織（北海道大学 JSPS 特別研究員）

主催：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」

(5) 第4回「中央ユーラシアと日本の未来」公開講演会（CEGLOC との協力）

題目：高度外国人材の活躍が企業にもたらすメリットとは

日時：2019年9月20日（金）

講師：河野堯広（JETRO 国際ビジネス人材課）

主催：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」

(6) 第5回「中央ユーラシアと日本の未来」公開講演会（CEGLOC との協力）

題目：日本の観光政策教育と地方自治体の多文化共生ビジョン

講師：山川和彦 教授（麗澤大学）

日時：2019年10月24日（木）

主催：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」

- (7) 第6回「中央ユーラシアと日本の未来」公開講演会（CEGLOCとの協力）  
 題目：日本の魅力を世界に伝える—多言語で伝えることの大切さと難しさ—  
 講師：青木優氏（株）MATCHA 代表取締役社長  
 日時：2019年11月15日（金）  
 主催：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」
- (8) 第7回「中央ユーラシアと日本の未来」公開講演会（CEGLOCとの協力）  
 題目：これからの日本社会における公共サインのあり方と研究の展望  
 講師：本田弘之教授（北麓先端科学技術大学院大学）  
 日時：2019年12月20日（金）  
 主催：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」
- (9) 第8回「中央ユーラシアと日本の未来」公開講演会（CEGLOCとの協力）  
 題目：Industry 4.0, University 4.0, Faculty 4.0, Students 4.0 —第4次産業革命で激変する社会のリーダーを作る大学教育  
 講師：當作靖彦教授（カリフォルニア大学サンディエゴ校）  
 日時：2020年2月7日（金）  
 主催：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」

## 5. FD 研修会

- (1) CEGLOC WORKSHOP with Dr. Elizaveta Tarasova  
 議長：小野雄一（筑波大学准教授）  
 日時：2019年5月29日（水）  
 場所：CEGLOC 棟 CA413  
 主催：筑波大学
- (2) Grant-in-Aid for Scientific Research (KAKENHI)  
 テーマ：Seminar for Non-Japanese Researchers  
 日時：2019年7月22日（月）  
 主催：CEGLOC FD委員会  
 共催：筑波大学人文社会系・研究支援
- (3) 第17回表現主体の外国語教育研究会  
 トピック：フランス語でのオーラルコミュニケーション  
 日時：2019年10月13日（日）  
 主催：表現主体の外国語教育研究会、CEGLOC FD委員会
- (4) 第3回 CEGLOC カンファレンス  
 テーマ：言語習得と脳  
 日時：2019年12月7日（土）  
 主催：CEGLOC FD委員会  
 共催：JALT 分科会 Mind, Brain and Education、JALT 茨城支部

担当：ジャクタ・ブルノ助教

(5) 第6回筑波大学内研修会—教員のための CLIL FD 研修会

テーマ：「英語で効果的に授業を行うために」

場所：国際講義棟 9L201

講師：株式会社アルク グローバル人材開発コンサルタント、磐崎弘貞  
CEGLOC センター長

日時：1日コース 4回 10:00～17:00 (6時間)

第1回 9月24日(火) 8名参加

第2回 9月25日(水) 6名参加

第3回 3月9日(月) 7名参加

第4回 3月10日(火) 5名参加

## 6. 異文化イベント

(1) 第5回異文化セッション Identity! Who am I?

日時：2019年5月30日(木) 18:15-20:00

担当：ジャクタ・ブルノ(筑波大学助教)、サンドウ・ロクサナ(筑波大学助教)、  
シュシェン・ハナ・ミジャ(筑波大学大学院生)

(2) カザフスタン映画上映会 “WHERE THE WIND BLEW” (CEGLOC との協力)

日時：2019年12月18日(水) 18:00-20:00

場所：筑波大学中央図書館集会室

主催：筑波大学「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト」、駐日カ  
ザフスタン大使館

## 7. 語学研修説明会

(1) オックスフォード大学夏季語学研修プログラム説明会

日時：2019年4月25日、5月10日、5月24日

担当：久保田章教授

(2) 中国語夏季短期研修説明会

日時：2019年5月29日

担当：池田晋助教

## 8. TOEFL

(1) 学群1年次対象 TOEFL ITP テストの実施 ※英語プレイスメントテスト

日時：2019年4月9日(火)

担当：企画調整部門、CEGLOC 事務室

(2) TOEFL テスト説明会

日時：2019年4月25日、5月15日、6月11日、11月12日、11月22日

担当：CEGLOC、グローバル・commons機構

- (3) 学群 3 年次対象 TOEFL ITP テストの実施  
日時：2019 年 5 月 18 日（土）  
担当：企画調整部門
- (4) 学群 3 年次対象 TOEFL ITP（追加テスト）の実施  
日時：2019 年 11 月 27 日（水）  
担当：企画調整部門

## 9. 見学受入

- (1) 茨城県水戸第三高等学校 普通科 2 年  
日時：2019 年 5 月 31 日（金）  
担当：野田技術専門職員
- (2) 栃木県さくら清修高等学校 2 年  
日時：2019 年 6 月 13 日（木）  
担当：野田技術専門職員

## 10. その他

- (1) OSU-Tsukuba Linguistics Workshop/DaSiC 2019  
テーマ：Language Acquisition & Pedagogical Methods in Collaboration  
日時：2019 年 7 月 4 日（木）  
主催：CEGLOC FD 委員会  
議長：小野雄一（筑波大学准教授）、島田雅晴（筑波大学准教授）
- (2) 2020 年国際母語デー  
日時：2020 年 2 月 21 日（金）  
主催：筑波大学人文社会系  
共催：筑波大学国際室